

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
岩国YMCA国際医療福祉専門学校	平成10年3月31日	上久保 昭二	〒740-0018 山口県岩国市麻里布町2-6-25 (電話) 0827-29-2233				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 広島YMCA学園	昭和42年3月22日	松井 敏	〒730-8523 広島県広島市中区八丁堀7-11 (電話) 082-228-2266				
目的	保健・医療及び福祉等に関する専門的知識および技術を教授し、キリスト教精神に基づき、豊かな人間性を養い、地域の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を育成する。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	介護福祉学科		平成12年文部科学省告示第15号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1950	780	690	450		30
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
80人	31人	3人	22人	25人			
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 科目試験・実習の成績、履修状況、その他の方法に基づいて行う。成績基準はA:80～100点、B:70点～79点、C:60点～69点、D:60点未満。A/B/Cは合格、Dは不合格			
長期休み	■夏 期:7月下旬から8月下旬 ■冬 期:12月下旬から1月上旬 ■春 期:3月下旬から4月上旬		卒業・進級条件	在学年限内に1950時間を履修し、授業科目の各々の単位を認定され、出席日数が出席すべき日数の2/3以上の者、介護実習は4/5以上の者			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 定期的連絡、三者面談(本人・家族・教員)二者面談(本人又は家族・教員)		課外活動	■課外活動の種類 英会話、茶道、トーンチャイム、ボランティアなど ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 山口平成病院、特養美和苑、医療法人新生会、高森福祉会、山口県社会福祉事業団他 ■就職率 <sup>※1</sup> : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> : 100% ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	介護福祉士受験資格 福祉住環境コーディネーター(2・3級)			
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成28年4月1日 在学者 33名(平成28年4月1日 入学者を含む) 平成29年3月31日 在学者 32名(平成29年3月31日 卒業者を含む)		■中退率 3%				
	■中途退学の主な理由 進路変更・体調不良・成績不振 ■中退防止のための取組 非常勤講師と連携しながら情報共有し、欠席・欠課・授業態度等で早期発見し、面接や家族連絡を実施している。一年次には必ず個別に保護者会を実施。スクールカウンセリングの活用。						
ホームページ	<a href="http://iwakuni-ymca.jp">http://iwakuni-ymca.jp</a>						

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

社会福祉士及び介護福祉士の規定の基、養成施設の指定基準に基づきカリキュラムを編成している。指定時間数より「介護」の時間数を増やし介護技術取得に努めている。さらに、介護現場における人材の専門性や新たに必要となる知識・技術について、介護現場との連携を創り教育課程に反映させる。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名前	所属
山永 則宏	山口県デイサービスセンター協議会 理事
半田 達也	介護老人保健施設 みどり荘 事務長
福水 美恵	岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長補佐兼特別顧問
佐々木 洋子	岩国YMCA国際医療福祉専門学校 介護福祉学科 学科長
沖島 均	岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長

(開催日時)

第1回 平成28年6月3日 18:00～19:00

第2回 平成28年12月15日 18:00～19:00

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

利用者の生活の場である多様な介護現場において、それぞれの個別性を理解していく。実践的専門性を身につけるために、利用者理解を中心とした、コミュニケーションや人間関係の構築、介護技術の実践、多職種協働の実践等を実施する。そのために、学内での講義や演習により、介護福祉士に求められる専門的知識と技術を身につけ、介護実習で実践しながら、自己を振り返り自己課題を明らかにして行く必要がある。実践力がある介護福祉士になるためにも介護実習はなくてはならないものである。

科目名	科目概要	連携企業等
介護実習Ⅰ 通所系	高齢者通所サービス施設:①高齢者通所サービスの制度や利用者の状況について学ぶ。②利用者との出会い、その暮らしの様子について知ることができる。障がい者福祉通所施設:①障がい者通所サービスの制度や利用者の状況について学ぶ。②見学を通して、さまざまな障害者の日中活動の場を知る。	ゆうあいホームデイサービス ふれんずデイケア みどり荘デイケア 緑風荘デイサービスセンター ささみ園等
介護実習Ⅰ 居宅系	住み慣れた地域の中で、さまざまな介護サービスを活用しながら暮らしている高齢者や障がいのある人々と出会い、生活の場における個別的な生活支援の重要性について学ぶ。	社協ヘルパーセンター岩国 社協ヘルパーセンター由宇 グループホームだんろの家 グループホームかなえ 望海の里等
介護実習Ⅰ 施設系①	24時間を通して展開されている施設のケアの実際を知り、利用者との人間的なふれあいを通して、施設における援助者の役割について考える。	玖珂苑 緑風荘 阿品清鈴 洗心園等 かなえ
介護実習Ⅰ 施設系②	施設における個別ケアの重要性について理解し、利用者を主体として生活を支援するために必要なアセスメントの重要性について学ぶ。	玖珂苑 緑風荘 阿品清鈴 洗心園等 かなえ
介護実習Ⅱ 施設系③	①担当利用者の個別援助計画を作成・実施し、実施後振り返りを通して評価・修正の重要性を理解する。 ②他科目で学習した知識・技術・態度を統合し、具体的に介護実践の基本となる能力を養う。	阿品清鈴 洗心園 かなえ ふれんず等 緑風荘
福祉住環境	利用者の身体状況に応じた住環境整備の具体的な方法と、運用方法を理解する。	パシフィックサプライ株式会社 竹の子の里株式会社

### 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教職員研修規定に基づき、教員は専門科目の実務に関する知識・技術、その教授方法について、また多様化する学生への指導に対する研鑽を深めるために、定期的及び継続的に研修・研究の機会を持つ。介護福祉学科では、介護福祉士・社会福祉士・看護師等実務経験5年以上のものが介護教員講習会で300時間の講習を受けて教員になる。新任の教員は必ず講習会を受けている。近年、学生を取り巻く生活が多様化し、学力に生活状況に違いが見られ、教員の指導力は対象者の状況に応じた対応が求められる。その為にも、専門分野に限らない、幅広い視野で学生に講義・指導をし、学生対応や授業展開の改善に役立てるものとする。

### 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成29年4月1日現在

名前	所属
柏村 雅実	岩国YMCA国際医療福祉専門学校 卒業生保護者
浴森 公子	岩国市医療センター医師会病院 看護部長
白銀 優子	岩国中央病院 総看護部長(第三期卒業生)
山崎 幹	岩国第一病院 事務部顧問
半田 達也	介護老人保健施設 みどり荘 事務長
福水 美恵	岩国YMCA国際医療福祉専門学校 校長補佐兼特別顧問
金澤 暁民	岩国YMCA国際医療福祉専門学校 教員 自己点検自己評価委員長
沖島 均	岩国YMCA国際医療福祉専門学校 事務長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://iwakuni-ymca.jp/content/pdf/koukai/gakkouhyouka-iin-jikohyouka-kouhyou.pdf>

### 5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://iwakuni-ymca.jp/disclosure.html>

## 授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成29年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				人間の尊厳と自立	「人間の尊厳の保持」、「自立・自律支援」の歴史的な歩みを学ぶ中で、介護実践に必要な価値意識や考え方を学ぶ。	1年・前期	30		○			○		○		
○				人間関係とコミュニケーション	人間関係の大切さと、そのプロセスを抑え、介護実践におけるコミュニケーションの基礎と技法を学ぶ。	1年・前期	30		△	○		○			○	
○				生活と福祉	地域で暮らす高齢者について理解を深める。社会構造の変化およびライフスタイルの多様性について学ぶ。	1年・前期	30		○			○			○	
○				社会保障制度Ⅰ	わが国の社会保障制度のしくみの概略を説明し、介護保険制度や障害者総合支援法については実践的に活用できるように詳細を述べる。	1年・後期	30		○			○			○	
○				社会保障制度Ⅱ	保健福祉制度、生活保護などの主要な社会保障制度について、ビデオ、新聞記事等を活用して、生活実態や社会情勢の動向を概説する。新聞等に目を通し、問題点の整理や自らの考えをまとめる機会をつくる。	2年・後期	30		○			○			○	
○				情報処理	パソコンを活用した授業を展開する。	1年・前期	30		○			○			○	
○				保健体育	ストレッチ、球技、ダンスなど様々なスポーツプログラムの体験を中心に展開する。	1年・前期	30		△			○			○	
○				国際理解(英会話)	視聴覚教材を活用しながら、グループワークを中心に授業を展開する。	1年・前期	30		○			○			○	

○		介護福祉の基本Ⅰ	社会福祉の歴史、基本概念と倫理、介護福祉士の役割について学習する。	1年・前期	30		○				○								
○		介護福祉の基本Ⅱ	介護サービス提供の場の特徴と他職種の連携について学ぶ。	1年・後期	30		○				○								
○		介護福祉の基本Ⅲ	これまで学んできた知識・技術・実習経験を総動員して、利用者の安全について具体的に考える。さらに、演習、実技を通して、介護福祉士の心身の健康管理の重要性を学ぶ。	2年・後期	30		○				○								
○		人間の暮らしと余暇Ⅰ(レク)	レクリエーションの考え方を踏まえ、実習において実際に歌を使ったレクリエーションを行う上での援助者としての視点を養う。	1年・後期	30		○				○								○
○		人間の暮らしと余暇Ⅱ(レク)	実習に向けてレクリエーションを計画、実施する。実施したレクリエーションを振り返り、よりよい援助のために、援助者としてどのような視点が必要か理解する、レクリエーション活動分析を学び、個人の特性に合わせたレクリエーションのアレンジメントの必要性を理解する。	2年・前期	30		○				○								○
○		福祉住環境	利用者の身体状況に応じた住環境整備の具体的な方法と、運用方法を理解する。	2年・前期	30		○	△			○								○
○		コミュニケーション技術Ⅰ	人間関係形成の重要性とそのプロセスを抑えつつ、介護実践に必要なコミュニケーションの基礎と技法を学ぶ。	1年・後期	30		△	○			○								○
○		コミュニケーション技術Ⅱ	利用者の特徴に応じたコミュニケーションの実際を学ぶ。介護におけるチームのコミュニケーションの実際を学ぶ。	2年・後期	30		△	○			○								○
○		生活支援技術Ⅰ(介護技術)	居住環境の整備・移動・身じたくに関する基本的な介護技術を学ぶ。介護技術の実施において、安全・安心・自立の重要性、また根拠を持つことの重要性について学ぶ。	1年・前期	90						○								○

○		生活支援技術Ⅱ(介護技術)	こころとからだのしくみの理解で学んだ知識を活用して、安全で安心できる根拠ある基本的な介護技術の方法を学び、習得する。	1年・後期	90			○		○							
○		生活支援技術Ⅲ(介護技術)	暮らしの場における生活支援技術・様々な状況、個別性に応じた基本的な介護技術を学ぶ。介護技術の実施において、安全・安心・自立の重要性、また根拠を持つことの重要性について学ぶ。	2年・前期	90			△		○		○					
○		生活支援技術(健康生活)	これまでの学習を統合させていながら、生活支援技術・様々な状況、個別性に応じた基本的な介護技術と健康観察の基本について学ぶ。介護技術の実施において、安全・安心・自立の重要性、また根拠を持つことの重要性について学ぶ。	2年・後期	30			○		△		○					
○		生活支援技術(家事支援)	生活支援を必要とする人の生活を重視し、個別性を尊重し、幅広く生活上の援助を行うための基礎となる技術を学ぶ。	1年・後期	30			△		○		○					
○		生活支援技術(手話・点字)	手話：手話通訳士、聴覚障害者、盲ろう者を講師に日常生活の様子を織り交ぜ、支援の方法、意思伝達手段の基本を学ぶ。点字：視覚障がい者の講話をもとに、より一層、視覚障がい者を理解し、文字伝達手段である点字の読み書きの技術を習得する。	1年・前期／後期	30			△		○		○					
○		介護過程Ⅰ	①介護過程の意義と目的を理解する。②展開のプロセスについて学ぶ。③介護を提供するためのアセスメントの重要性を理解する。④情報収集の目的・方法について理解する。⑤情報収集の視点について理解する。	1年・後期	30			○		△		○					
○		介護過程Ⅱ	支援を提供する対象者と生活場面の課題を理解し、目標設定できる思考の展開を理解、個別援助計画立案について学ぶ。	2年・前期	30			△		○		○					
○		介護過程Ⅲ	支援を提供する対象者と生活場面の課題を理解し、目標設定できる思考の展開を理解する。	2年・後期	60			△		○		○					

○		介護過程Ⅳ	地域・施設それぞれのゲストスピーカーから、チームアプローチの実践を聞き、多職種協働の視点について考えることができる。	2年・後期	30		○	△		○	○							
○		介護総合演習Ⅰ	実習前には通所サービス実習に向けて、個人・グループで事前学習、事前訪問、事前訪問報告会の準備を行う。実習終了後は、個人・グループで報告書を作成し、報告会を行う。	1年・前期	30		△	○		○	○							
○		介護総合演習Ⅱ	実習前には施設サービス実習に向けて、個人・グループで事前学習、事前訪問報告会等の準備を行う。実習終了後が、報告書を作成し、報告会を行う。	1年・後期	30		△	○		○	○							
○		介護総合演習Ⅲ	多様な介護サービスにおける利用者の生活支援についての学習や実習準備を行う。また、2年次における自己の課題の明確化、目標を計画する。	2年・前期	30		△	○		○	○							
○		介護総合演習Ⅳ	実習Ⅱの振り返りや介護過程のまとめ・報告をし、自己の課題の達成度や新たな課題を明確にする。	2年・後期	30		△	○		○	○							
○		介護実習Ⅰ 通所系	高齢者通所サービス施設： ①高齢者通所サービスの制度や利用者の状況について学ぶ。 ②利用者との出会い、その暮らしの様子について知る。 障がい者福祉通所施設： ①障がい者通所サービスの制度や利用者の状況を学ぶ。 ②見学を通して、様々な障がい者の日中活動の場を知る。	1年・前期	300					○	○	○	○					
○		介護実習Ⅰ 居宅系	住み慣れた地域の中で、様々な介護サービスを活用しながら暮らしている高齢者や障がいのある人々と出会い、生活の場における個別的な生活支援の重要性について学ぶ。	2年・前期							○	○	○	○				
○		介護実習Ⅰ 施設系①	24時間を通して展開されている施設のケアの実際を知り、利用者との人間的なふれあいを通して、施設における援助者の役割について考える。	1年・後期							○	○	○	○				
○		介護実習Ⅰ 施設系②	施設における個別ケアの重要性について理解し、利用者を主体として生活を支援するために必要なアセスメントの重要性について学ぶ。	2年・前期							○	○	○	○				

○		介護実習Ⅱ 施設系③	①担当利用者の個別援助計画を作成・実施し、実施後振り返りを通して評価・修正の重要性を理解する。②他科目で学習した知識・技術・態度を統合し、具体的に介護実践の基本となる能力を養う。	2年・後期	150					○		○	○	○
○		発達と老化の理解Ⅰ	人間の成長と発達について学ぶ。老化に伴うこととからだの変化が日常生活に及ぼす影響について学ぶ。	1年・前期	30					○		○		○
○		発達と老化の理解Ⅱ	高齢者に多い症状や病気の特徴を理解して、その留意すべき点について学ぶ。	1年・後期	30					○		○		○
○		認知症の理解Ⅰ	認知症を取り巻く状況、医学的側面からみた認知症の基礎的知識、心とからだの変化を概説する。	1年・後期	30					○		○		○
○		認知症の理解Ⅱ	認知症を取り巻く状況、医学的側面からみた認知症の基礎的知識、心とからだの変化を概説する。	2年・前期	30					○		○		○
○		障害の理解Ⅰ	障がいの理念や障がい者福祉の基本概念、医学的側面からの障がいについて学ぶ。	1年・前期	30					○		○		○
○		障害の理解Ⅱ	医学的側面からの障がい、地域におけるサポート体制や他職種との協働のあり方、家族への支援について学ぶ。	2年・前期	30					○	△	○		○
○		こころとからだのしくみⅠ	人間が「生きている」しくみと、人が生活行為を行うためには人体の各器官が、どのようなしくみと働きを持っているかについて学ぶ。生活支援をする上での根拠について学ぶ。	1年・前期	30					○		○		○
○		こころとからだのしくみⅡ	生命の維持・恒常と生活支援技術に関連した身じたく、食事におけるこころとからだのしくみについて学ぶ。	1年・後期	30					○		○		○
○		こころとからだのしくみⅢ	生活支援技術に関連した排泄、睡眠におけるこころとからだのしくみについて学ぶ。	2年・前期	30					○		○		○



○		こころとからだのしくみⅣ	生活支援技術に関連した入浴清潔保持、終末期におけるこころとからだのしくみについて学ぶ。	2年・後期	30		○			○								
○		医療的ケアⅠ基礎	個人の尊厳と自立の支援の中で自己決定の権利や説明・同意の必要性を理解する。支援者が感染経路になりうることを理解し、両者の健康状態の観察の必要性を理解する。	1年・後期	30		○	△		○								
○		医療的ケアⅡ(経管栄養)	前半に安全な喀痰吸引の手法を講義で理解し、演習で安全・感染予防に重点をおいて実施する。	2年・前期	30		△	○		○								
○		医療的ケアⅢ(喀痰吸引)	経管栄養法について、介護福祉士が医療連携のもとで責任を持って実施できるように消化器系の働きから経管栄養法の必要性・注意点・事故防止対策等幅広く教育する。	2年・後期	30		△	○		○								
合計			48科目			単位時間1950時間												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
在学年限内に1950時間を履修し、授業科目の各々の単位を認定され、出席日数が出席すべき日数の2/3以上の者、介護実習は4/5以上の者	1学年の学期区分	前・後期	
	1学期の授業期間	24週	

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。